

第331号

2011年

9月22日

どついたニュース

全損保日動外勤支部

東京都中央区銀座5-13-7

東銀座東京海上日動ビル1階

電話 03-3542-9857

FAX 03-3542-9858

教宣部 発行

JAL不当解雇撤回闘争 宣伝行動に8名参加

働く仲間のたたかいを

積極的に支援していこう

見せしめのために 165 人ものクビを切ったのか

経営再建と称し、昨年の大晦日にパイロットやキャビンアテンダントなど 165 名のクビ切りを強行した日本航空社（JAL）に対し、現在、不当解雇撤回闘争が行われています。この闘争は、8月3日に都労委で勝利命令を勝ちとり、裁判闘争では9月30日（金）にこのクビ切りを強行した稲盛会長の証人尋問が行われるという山場を迎えています。

稲盛会長は今年2月8日の日本記者クラブでの会見で「（解雇した）160人を残すことが経営上不可能かという、そうではないのは皆さんもおわかりになると思うし、私もそう思いました」と発言しており、この発言を裏付けるように、日本航空社は3月期の決算で1884億円の黒字を計上しています。このことは165名のクビ切りを強行せずとも日本航空社の再建を果たせたことのまさに証左であり、クビ切りの実行者である会長自らが公にそれを認めているという、きわめて異常な事件です。これではまるで、合理化している姿を国民に見せるために165人もの従業員のクビを切ったと言っているようなものです。経営者のパフォーマンスのために、従業員の生活や雇用が破壊されるなどあってはなりません。記者クラブでの発言のように、稲盛会長が法廷で真実を述べるかどうか、注目が集まっています。

今回のクビ切りの対象とされた方々はほとんどがベテラン社員であり、長年の実績や経験に基づいて、「空の安全」に特に精通された方々だと言っても過言ではありません。 ”

安全、を何よりも大切にしなければならない航空会社が、経済合理性のために、豊富な経験を持つ社員をいとも簡単に切り捨てたという構図でもあり、「空の安全」という観点から見ても大きな問題があります。また、クビ切りの対象とされた方々は、働くものの声を主体に活動する労働組合に所属していた方々でもあり、「ものを言う労働者を排除する」という経営の狙いも透けて見えます。

こうした構図はまさに私たちの闘争と重なりますし、本社前総行動などの私たちのたたかいにも JFAU（航空労組連絡会）の代表者が旗を持って駆けつけてくれ、壇上から抗議の声を発していただいたという経緯からしても、私たちは全面的にこの不当解雇撤回闘争を支援していきます。

9月13日（火）に行われた「JAL 大宣伝行動」に首都圏の組合員8名が参加しました（立川駅3名・池袋駅3名・品川駅2名）。原告であるパイロットやキャビンアテンダントの方々はそれぞれ制服を着て、一人でも多くの方に支援を訴えていました。また、訴えのなかでは、経費削減のために「安全」がないがしろにされていく社内の実態も語られました。

多くの方のご支援で闘争を解決させた私たちは、運動方針に則り、働く仲間のたたかいを積極的に支援していきます。